一般財団法人 Ruby アソシエーション
2017 年度　第 1 回定時評議員会　議事録

1　開催場所：IIJ グループ本社（飯田橋グラン・ブルーム）　21FY1 セミナールーム
　　東京都千代田区富士見 2-10-2
2　開催日時：2017 年 6 月 27 日(火)　14:00～15:00
3　評議員総数及び定足数：現在総数 13 名、定足数 7 名
4　出席評議員数：8 名
（本人出席）及川喜之、大場寧子、後藤裕蔵、立久井正和、中島宏
　　羽田昭裕、森正弥、吉田正敏
（欠席）石川明、出田健二、最首英裕、平松知江子、吉岡宏
5　出席理事：松本行弘、井上浩、笹田耕一、田中和明、橋本明彦
6　事務局：前田修吾、横田早百合、徳永翔二、江角俊秀
7　オブザーバー出席：高橋征義、大川毅、山根幸二、佐藤文昭、本田智和、杉原健司、周藤万里絵

以上のとおり評議員の出席があり本評議員会は適法に成立したので、出席評議員から大場寧子が議長として選出され開会を宣し、出席評議員から立久井正和、後藤裕蔵が議事録署名人として選出された。先ず、冒頭で松本理事長から挨拶があり、続いて下記議案の審議に入った。

8　内容
■松本理事長挨拶
・2018 年 2 月で Ruby 開発開始以来 25 年になる。
・Ruby は Rails によって WEB においては確固たる地位を確立しているが、主戦場がモバイルアプリケーションに移り、WEB アプリケーションにおいてもシングルページアプリケーションで JavaScript のほうが分量が多くなったりなどの変化があり、さらに機械学習や人工知能、IoT などがホットな分野になっており、WEB というのはあって当たり前の領域になりつつある。あって当たり前なので、すぐに Ruby がなくなるとか衰退するといった心配はしなくてよいと思うが、Ruby アソシエーションとしてもさまざまなかたちで Ruby の裾野をさらに広げるような活動を支援していきたいと考えている。
・評議員の皆様からのご意見もお聞きして、Ruby が協賛会員の皆様にとっても、また広く IT 業界のすべての方々にとってもプラスになるような価値のある存在でありつづけられるような取り組みをつづけたい。本日の活発な議論を期待する。

■審議事項 1：2016 年度事業報告書及び決算報告書
議長が事務局に報告を求め、徳永事務局員が別添資料 1 に基づき 2016 年度事業報告書の説明を行い、次いで横田事務局員が別添資料 2 の下記の書類に基づき、2016 年度決算案の説明を行った。
（1）貸借対照表　（2）正味財産増減計算書　（3）財産目録　（4）財務諸表に対する注記
また、今岡監事による監査報告により、上記の書類につき綿密に監査した結果、いずれも正確かつ適切であることが認められた旨を報告した。
以下、質疑応答。
吉田評議員：公開された事例紹介に対しての数値的な反応と、（昨年度に計画として挙がった）ビジネスセミナー地方開催についての今後の方針についてお聞かせいただきたい。
前田事務局長：事例紹介に対しての数値的な反応については、ページビュー数などを整理した上であらためて皆様にメールでお送りさせていただく。ビジネスセミナーの地方開催については、昨年度は広島で開催させていただいた。コミュニティ経由で声をかけさせていただいた方々には来ていただけたが、それ以外の一般の方々に広くご来場いただくというのは地方だとまだ難しい面がある。
徳永事務局員：今年度のビジネスセミナーについては、開催場所は東京・大阪中心になるが、内容の面で技術的な内容を中心にしたものやその他旬のトレンドを取り入れた内容を検討している。
最後に、議長が本審議事項につき可否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認可決した。

■審議事項2：理事改選について
議長が事務局に報告を求め、横田事務局員が理事改選について以下の説明を行った。
・本評議員会の終結時を以て現理事全員の任期が満了となる。
・本会での評議員の方々からの承認によって、現理事全員（松本行弘、井上浩、笹田耕一、田中和明、橋本明彦、山根泉）の再任を行いたい。
現理事各人について、再任の承認の可否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

■その他：Ruby25周年記念イベント
議長が事務局に報告を求め、前田事務局長、徳永事務局員がRuby25周年記念イベントについて以下の説明を行った。
・来年のRuby開発25周年を記念したイベントの開催を検討している。
・開催については実行委員会形式で進めたいと考えている。
・何かこういったことをしたらよいのではないか等のご意見があれば、お聞かせいただければと思う。
また、実行委員会のメンバーである笹田理事から、本評議員会開催時点でのイベント企画案について以下の報告が行われた。
・メディアの方に来ていただいてRubyの発展をアピールすることが目的。
・内容で選ぶのか、話者で選ぶのか、それぞれの方向で案を出している段階。
・発表内容としては次のような内容を検討している。
  ・Rubyのさまざまな用途の現状、現在のRubyの世界を示すようなストーリー
  ・Ruby3の話とそれ以降のロードマップ
  ・プログラミングがこれからどうなっていくのか
  ・Rubyアソシエーションのこれまでとこれからの活動
・Rubyの利用者アンケート調査を世界的に実施してはどうか。
・Rubyにはいろいろな分野の方々が登場するので、産学官が並ぶとおもしろい。
・お呼びする話者については、産業界の大きなプレイヤーの方や若い人のロールモデルになるような方がよいと考えている。
・イベント外のネット上での企画については未検討。
以下、質疑応答。
まつもと理事長：利用者アンケートについては、どういったアンケートをとれば例えばユーザー数の推計などが把握できるのか。
笹田理事：それについてはこういった調査の専門家の方に伺わなければならないと考えているので、そのあたりからご相談させていただきたい。
森評議員：アンケートをとるのが厳しければ、拾えそうなデータから推計するのがよいのではないか。エンジニアであれば場所を問わず使っているデータから調べたほうが、Rubyの広がりとか多様性がわかってよい。例えばGithubの何かのデータから推計できないか。そこでエンジニアの傾向をみて、あとは全体のエンジニア数を推計して、そこからおそらくこれくらいの人がRubyを使っているだろう等。また、発表内容としては、技術トレンドの変遷とRubyとの関わり（Rubyと時代の移り変わり）についてもまとめられるとよいと思う。
立久井評議員：笹田理事からご説明いただいたイベント案のほかにも、25周年だからこその象徴的な何かがあるとよい。例えば大きなバースデーケーキを用意してケーキカットの様子を動画配信したりなどいろいろなことが考えられると思うが、そのような絵としてわかりやすかったりするような興味をひく要素が加わると、外部へのアピール効果もより高まるだろうと思われる。

■その他、意見交換
中島評議員：事業報告書について、現状の協賛会員数というところで、あまり昨年度から増えていない気がするが、このあたりは何か増やすための取り組みは考えておられるか。
前田事務局長：協賛の可能性のある企業様に事務局員がまわらせていただいて事業内容をご説明させていただいたりといったことは、イベント開催の前後でさせていただいている。候補としてご興味

を持っていただけそうなところがありましたら、お知らせいただければわれわれのほうからもう少しご説明させていただいてアプローチすることはできるかとは思う。ただ、残念ながら退会される企業様も何社かいらっしゃり、その点については今後考えていかなければならない。

杉原支援スタッフ：まずは既存の協賛会員様とのコミュニケーションを取る必要がある。直接訪問する機会もあれば、イベントの場でお会いする機会もあると思うが、協賛会員様が実際にどういったことを求めておられるかというお声を丁寧にお聞きする必要があるかと思う。現状としては、自社の採用活動につながるような企画を望む声も多くいただいている。また一方で、最近ではRubyを使って自社サービスをやっていらっしゃる企業様も多くなってきているので、そういう企業様へのアプローチというのも考えていかなければならないと思っている。

前田事務局長：今年度は、若い学生さんが興味を持つようなセミナーとセットで学生さんの採用につながるような交流の場をいっしょに設けられるようなイベントを企画できないかと考えている。そのあたりの検討ができたらまた皆様にお知らせしたい。既存の協賛会員様に価値を提供する取り組みと新たな会員様へのアプローチを今後も継続して考えていきたい。

上記の議決を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2017年6月27日

一般財団法人Rubyアソシエーション評議員会

議　　長	大場　寧子	印
議事録署名人	立久井　正和	印
議事録署名人	後藤　裕蔵	印